



1. 参加対象：会員理事長、学生委員長、専務理事、共済担当学生、院生・教職員理事・監事、2020採用内定者 インターンシップ参加者 その他興味ある生協関係者
2. **開催テーマ：「キャンパスに必要とされる生協らしい生協をめざして」**
3. 開催日時：2019年10月26日（土）14:00～18:00 札幌
対象：14会員 参加14会員67名
理事長・監事・教職員13名、専務理事12名、生協職員19名、学生・院生23名



大学生協・地域生協で働かれた経験のある北海道生協連 川原事務局長の基調報告「世界と日本の協同組合運動と大学生協への期待」では協同組合の日本と世界における広がりの実力、大学生協が北海道と日本の地域生協づくりに果たした役割、大学生協の価値、今後の協同組合連携について熱く語っていただいた。

- 参加者からの感想●
- 初めて知る話が多く大変勉強になりました。生協の理事長として必要なことを改めて考える貴重な機会になりました。（大学教職員）
- 福武会長所感。私たちはどれだけその努力をしてきたのだろうか？（生協職員）



5つの事例報告では、①キャンパス内の人のつながりづくりでハブの役割を果たす生協学生委員会の取組報告（函教：学生）、②全国で起きている大学からの業務委託やアウトソーシング、キャンパス内競合についての俯瞰報告（連合：職員）、③生協が起点となって大学の保健管理センターや自治体とのつながりづくりでおのおのが持てる力を最大限生かした形をつくり学生の健康を守る取組報告（樽商：学生）、④大学と生協の信頼関係強化や組合員に生協をより身近に感じてもらうことの取組報告（帯畜：専務）、⑤新入生・新学年に偏りがちな生協の取組を、上級生や院生などの通年利用や卒業までの利用にも目を向けることの重要性（北大：院生）の提起を行っていただいた。



分散会 グループでの感想交流

- 様々な立場の人の意見を聞いて、大学生協らしさとは、大学生協の未来のためにどんなことができるかを中心に交流することができた（学生）
- 生協は生かせるものを生かし切れていないことがまだまだ多いという感想を持ちました（大学教職員）
- 「生活協同組合」について、きちんと伝えていかなければならないと感じた（生協職員）

10年後に大学生協がめざすべき目標

- まだまだ変化できるところだと思う。より学生が生協運営に参加できる生協になればと思います（学生）
- 学生の生活に寄り添うことができることが大学生協の価値だと思うので、今後は学生の居場所を提供できるような到達目標をめざしたい（学生）
- 「未来を描く」それが大学生協が持つべき価値だと思います（生協職員）
- 人格形成の大切な時期である大学生活を支え続けること。自ら考える場をたくさん提供できる組織であり続けたい（大学教職員）